Change or Die !

2027年3月期第2四半期（中間期）

決算補足説明資料

株式会社 IDホールディングス（コード：4709　東証プライム）
代表取締役社長 兼 グループ最高経営責任者
船越 真樹

（開示日：2026年11月24日）

当社グループの元従業員による不正行為に関するお詫び

Change or Die !

このたび2026年9月15日に公表した元従業員による不正行為について、皆さまに多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、あらためて深くお詫び申し上げます。

被害を受けられたお客さまとは、真摯に対話を重ね、補償を含めた解決に向け、協議を進めております。また、当社は業務リスク管理部を新設し、外部有識者の意見も踏まえて業務管理体制の見直しを進めております。

くわえて、2027年3月期第2四半期（中間期）決算において、本事案に起因する特別損失を計上いたしました。本件に関する経営責任を明確にするため、役員報酬を自主返上する旨の申し出を受け、当社は役員報酬の減額を決定いたしました。

当社経営陣は、策定した再発防止策を確実に実行することが、経営としての重要な責務であると認識しております。これらの再発防止策を着実に実行し、その徹底を図ることにより、皆さまからの信頼回復に努めてまいります。

■当社グループの元従業員による不正行為に関する公表状況

日付	開示書類
9月15日	当社グループの従業員による不正行為に関するお詫びとお知らせ
9月30日	外部有識者による諮問委員会設置のお知らせ
10月16日	当社グループの元従業員による不正行為についての調査結果、再発防止策等に関するお知らせ（中間報告）
11月17日	当社グループの元従業員による不正行為についての経営責任および今後の対応に関するお知らせ

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

Change or Die !

1

2027年3月期第2四半期(中間期)
決算説明

2

中期経営計画
Next 50 Episode Ⅲ “JUMP!!!”

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

Change or Die !

売上高:193億99百万円(前年同期比 -0.4%)

⊖ アプリケーション開発における一部案件の終了

⊕ 注力事業領域であるITインフラ、コンサルティング・教育が順調に推移

売上総利益:52億36百万円(前年同期比 +3.7%)
営業利益　:18億98百万円(前年同期比 -6.0%)
営業利益率:9.8%(前年同期比 -0.6P)

⊕ 岩盤事業領域における生産性の向上

⊖ 従業員への還元(ベースアップ)や、人材育成・確保のための戦略的投資の増加

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

連結損益状況(前年同期比)

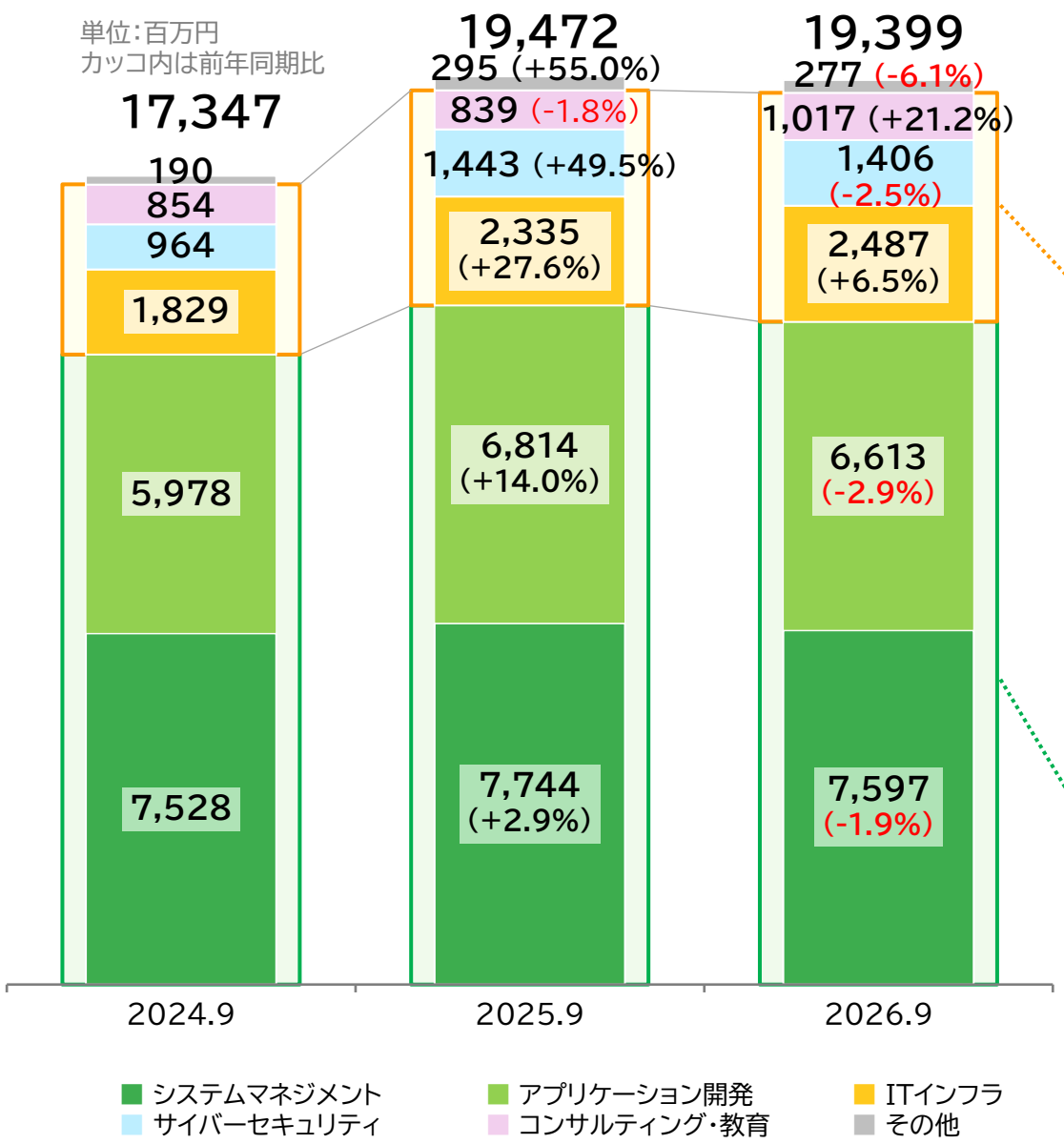
(単位:百万円)	2025.9		2026.9		増減比	
	実績	売上高比	実績	売上高比	増減額	増減率
売上高	19,472	-	**19,399**	-	-72	-0.4%
売上原価	14,423	74.1%	**14,163**	**73.0%**	-260	-1.8%
売上総利益	5,048	25.9%	**5,236**	**27.0%**	187	+3.7%
販管費	3,029	15.6%	**3,337**	**17.2%**	308	+10.2%
EBITDA※1	2,210	11.4%	**2,073**	**10.7%**	-137	-6.2%
営業利益	2,018	10.4%	**1,898**	**9.8%**	-120	-6.0%
経常利益	2,003	10.3%	**1,926**	**9.9%**	-76	-3.8%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,274	6.5%	**943**	**4.9%**	-331	-26.0%
1株当たり中間純利益(EPS)(円)	37.82	-	**27.74**	-	-10.08	-
のれん償却前EPS(円)※2	40.81	-	**30.38**	-	-10.43	-

※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額
※2 のれん償却前EPS = (親会社株主に帰属する当期(または四半期、中間)純利益+ のれん償却額) / 期中平均株式数
※3 当社は、2026年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期(または四半期、中間)純利益」および「のれん償却前EPS」を算定しています。

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

Change or Die !

サービス別売上高



注力領域

49億円
（構成比：25.3%、
YoY：+6.4%）

コンサルティング・教育（構成比：5.2%）
- ⊕ 金融、エネルギー、運輸関連顧客における コンサルティングの受注拡大
- ⊕ 中期経営計画にもとづく人材のアップスキル

サイバーセキュリティ（構成比：7.2%）
- ⊕ 大手ITベンダーとの連携による新規案件の獲得や取引の拡大
- ⊖ 高収益案件の終了

ITインフラ（構成比：12.8%）
- ⊕ 金融、運輸、エネルギー関連顧客における新規案件の獲得

岩盤領域

142億円
（構成比：73.3%、
YoY：-2.4%）

アプリケーション開発（構成比：34.1%）
- ⊖ 一部顧客の投資抑制の影響
- ⊕ 大手ITベンダーとの連携による受注拡大

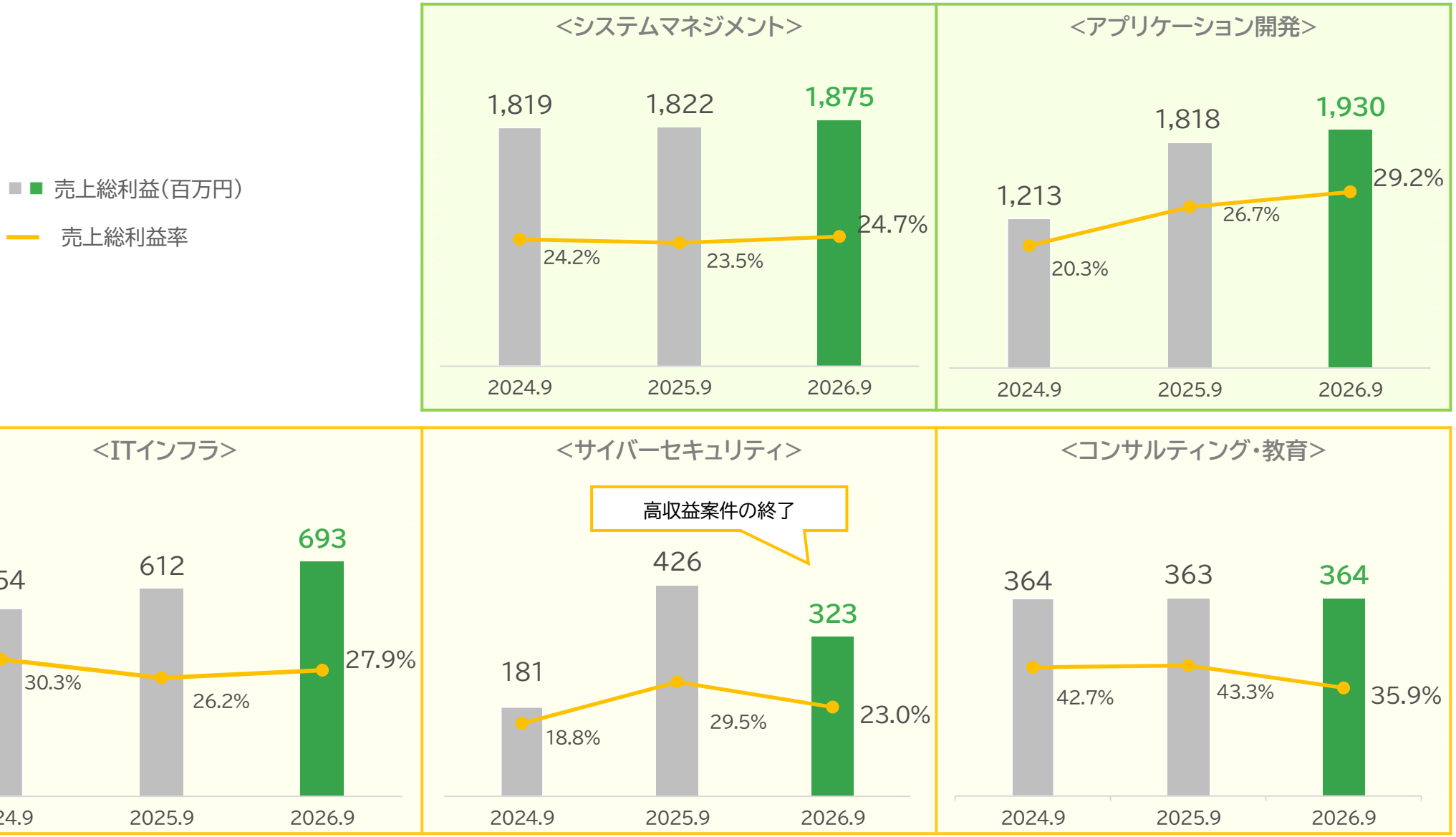
システムマネジメント（構成比：39.2%）
- ⊖ 大手ITベンダーにおける案件の終了
- ⊕ 既存顧客における案件拡大

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

サービス別売上総利益

Change or Die !

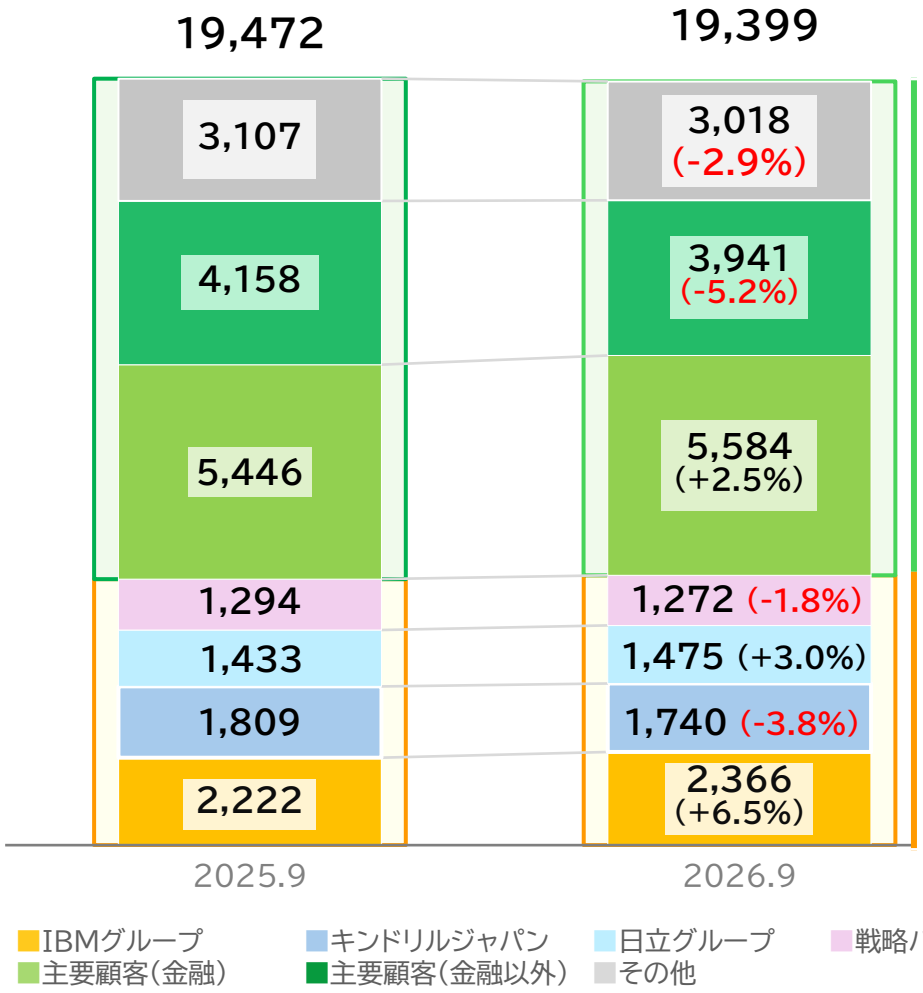


©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

戦略グループ別売上高構成

直接契約（6割超）と大手SIer経由の案件のバランスにより、安定した収益基盤を確保。

単位：百万円
カッコ内は前年同期比



直接取引
（売上高構成比：64.7%）

大手SIer経由
（売上高構成比：35.3%）

主要顧客（金融以外）
（構成比：20.3%）
- ⊖ 製造、エネルギー関連顧客におけるアプリケーション開発案件の縮小
- ⊖ 放送関連顧客におけるコンサルティング案件の終了
- ⊕ 運輸関連顧客における新規ITインフラ案件獲得

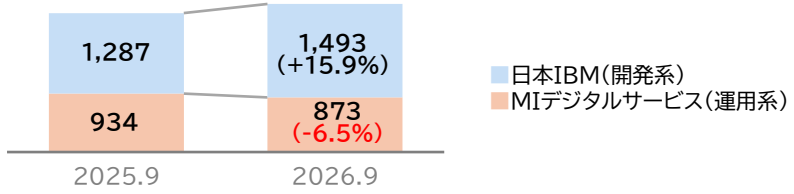
主要顧客（金融）
（構成比：28.8%）
- ⊕ システムマネジメントにおける公共系案件の拡大
- ⊕ 注力事業領域における金融系案件の拡大
- ⊖ ITインフラにおける案件の縮小

戦略パートナー
（構成比：6.6%）
- ⊖ アプリケーション開発における案件の縮小
- ⊕ 新規セキュリティ案件の獲得

日立グループ
（構成比：7.6%）
- ⊕ 官公庁関連顧客におけるセキュリティ案件の受注拡大等

キンドリルジャパン
（構成比：9.0%）
- ⊖ システムマネジメントにおける案件の終了等

IBMグループ
（構成比：12.2%）
- ⊕ 運輸関連顧客における大型アプリケーション開発案件の継続



Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

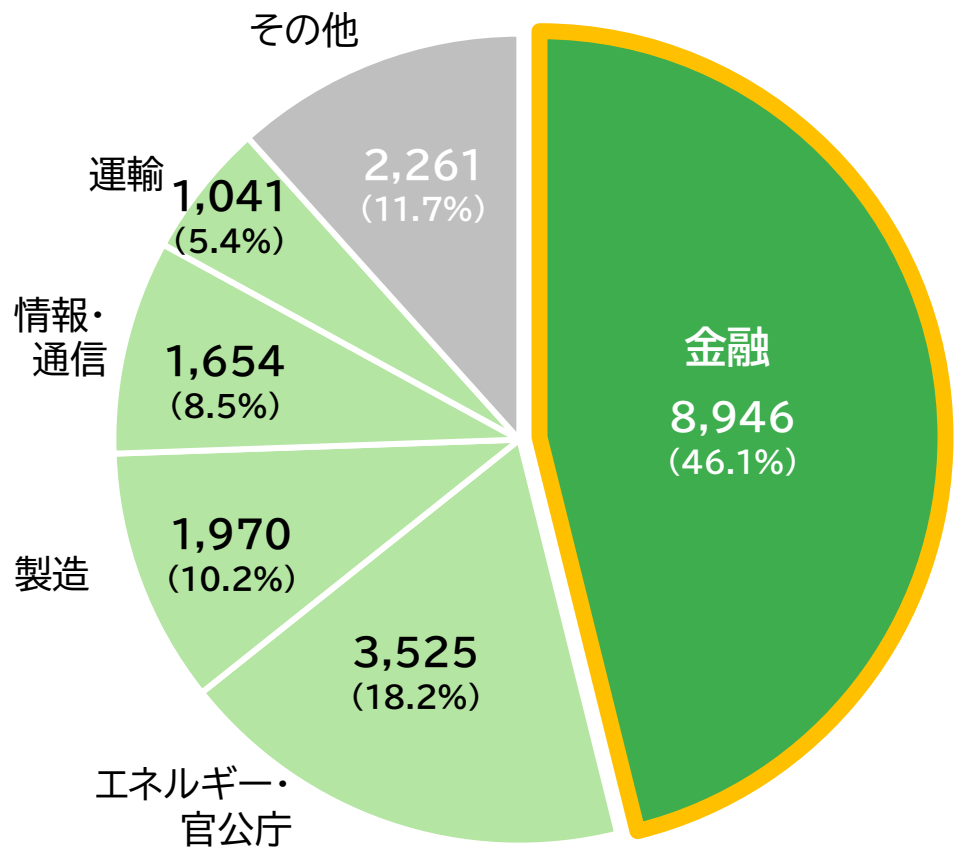
エンドユーザー業種別売上高構成

Change or Die !

金融向けの売上高が4割超を占める。

（単位：百万円）	2026.9	構成比	前年同期比	
金融	8,946	46.1%	+222	+2.5%
エネルギー・官公庁	3,525	18.2%	-443	-11.2%
製造	1,970	10.2%	+90	+4.8%
情報・通信	1,654	8.5%	-8	-0.5%
運輸	1,041	5.4%	+292	+39.1%
その他※1	2,261	11.7%	-226	-9.1%
合計	19,399	100.0%	-72	-0.4%

単位：百万円
カッコ内は売上高構成比



※1「メディア」、「ヘルスケア」、「建設・不動産」、「卸売・小売業・飲食店」等
※2 顧客企業の状況により、計上区分を変更する場合があります。前期の売上高も、変更後の区分に基づき算出しています。

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

営業利益の増減要因

（単位：百万円）	2025.9 実績	2026.9 実績	2026.9 増減額
売上高	19,472	19,399	-72 (-0.4%)
売上原価	14,423	14,163	-260 (-1.8%)
売上総利益	5,048	5,236	+187 (+3.7%)
販売費及び一般管理費	3,029	3,337	+308 (+10.2%)
営業利益	2,018	1,898	-120 (-6.0%)

売上総利益のおもな増減要因

■ 売上原価の減少　-260
- 外注費　-179
- 労務費　-106
- 製造経費　＋62

営業利益のおもな増減要因

■ 人件費の増加　＋70
- 従業員への還元の推進（ベースアップ）

■ その他販管費の増加　＋237
- 人材育成・確保のための戦略的投資の増加

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

親会社株主に帰属する中間純利益の増減要因

	2025.9	2026.9	
（単位：百万円）	実績	実績	増減額
経常利益	2,003	1,926	-76
特別利益	47	2	-44
特別損失	0	243	+243
法人税など合計	775	742	-33
親会社株主に帰属する中間純利益	1,274	943	-331

特別損失の増加要因

- 当社グループの元従業員による不正行為に起因する損害賠償損失引当金繰入額の計上
  ＋243

■当社グループの元従業員による不正行為に関する公表状況

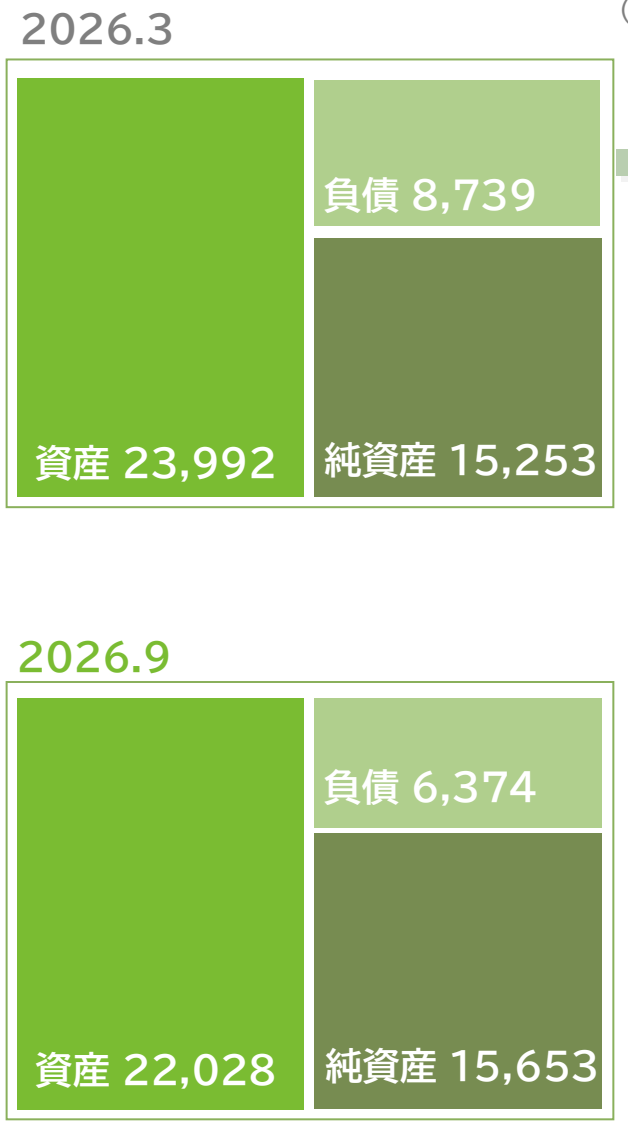
日付	開示書類
9月15日	当社グループの従業員による不正行為に関するお詫びとお知らせ
9月30日	外部有識者による諮問委員会設置のお知らせ
10月16日	当社グループの元従業員による不正行為についての調査結果、再発防止策等に関するお知らせ（中間報告）
11月17日	当社グループの元従業員による不正行為についての経営責任および今後の対応に関するお知らせ

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

バランスシートの要因分析

（百万円）



おもな要因

- 現金及び預金の減少 -936
- 売掛金の減少 -714
- 繰延税金資産の減少 -300
- 契約資産の減少 -251
- 有価証券の減少 -100
- 投資有価証券の増加 +337

おもな要因

- 有利子負債の減少 -1,000
- 賞与引当金の減少 -710
- 未払法人税等の減少 -398

自己資本比率：70.7%

流動比率：262.5%

のれん：184百万円

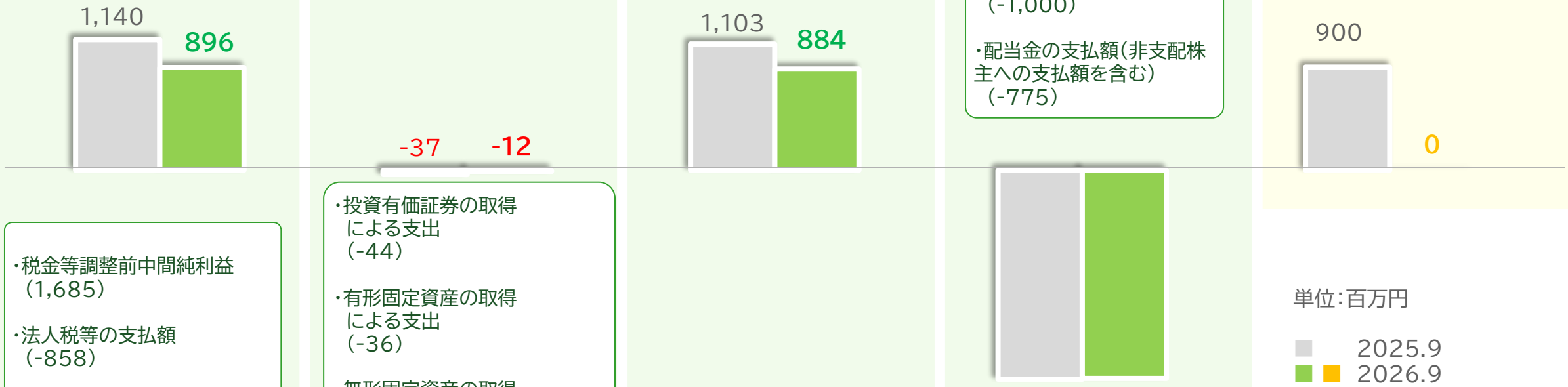
Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

連結キャッシュ・フローと有利子負債の状況

Change or Die !

営業CF	投資CF	FCF（営業CF＋投資CF）	財務CF	有利子負債



・税金等調整前中間純利益
（1,685）

・法人税等の支払額
（-858）

・投資有価証券の取得による支出
（-44）

・有形固定資産の取得による支出
（-36）

・無形固定資産の取得による支出
（-21）

・その他（差入保証金等）
（-12）

・有価証券の償還による収入
（100）

・短期借入金の純減少額
（-1,000）

・配当金の支払額（非支配株主への支払額を含む）
（-775）

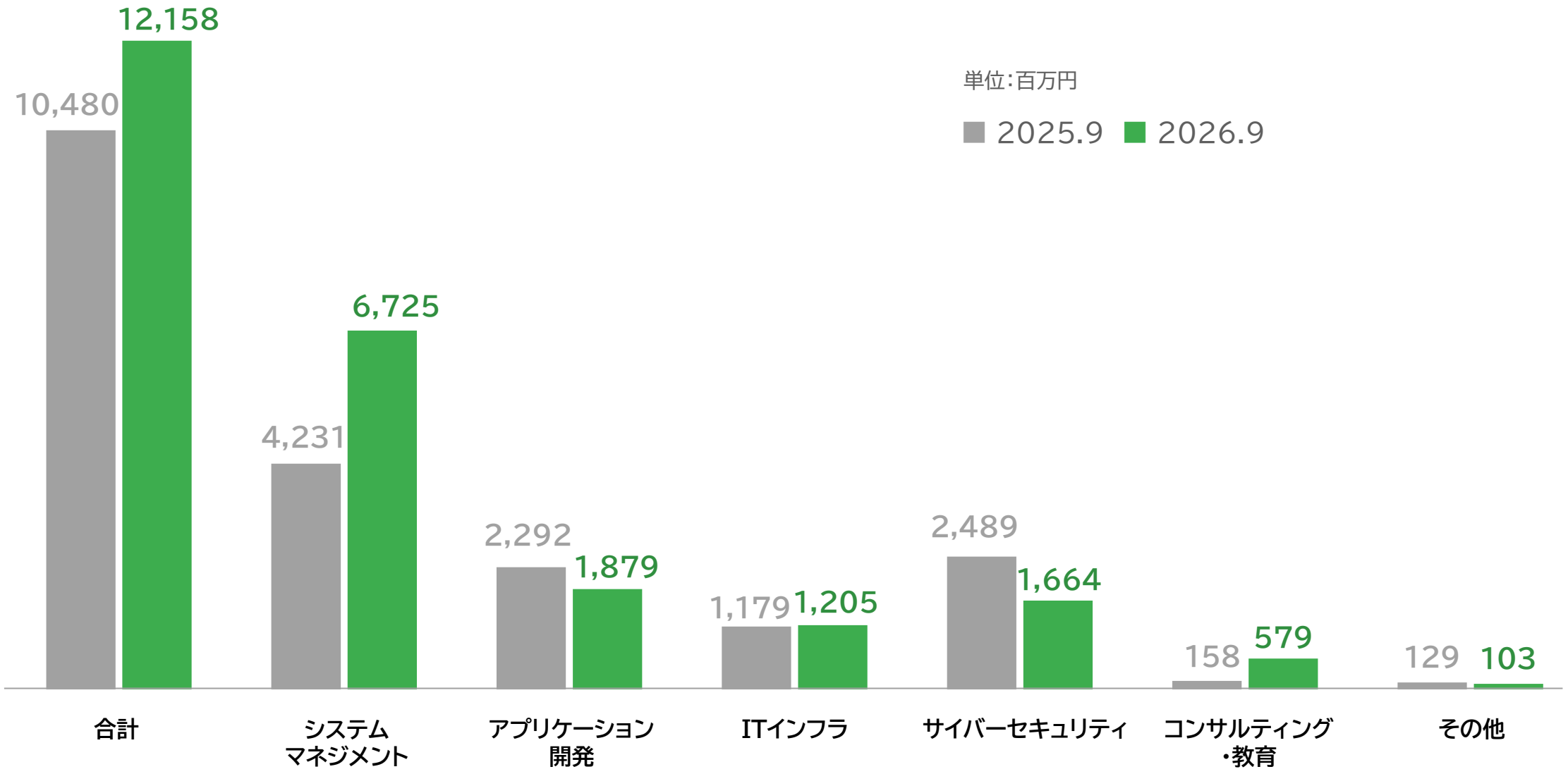
単位：百万円

2025.9
2026.9

2027年3月期
第2四半期のおもな内訳

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

サービス別受注残高(累計)



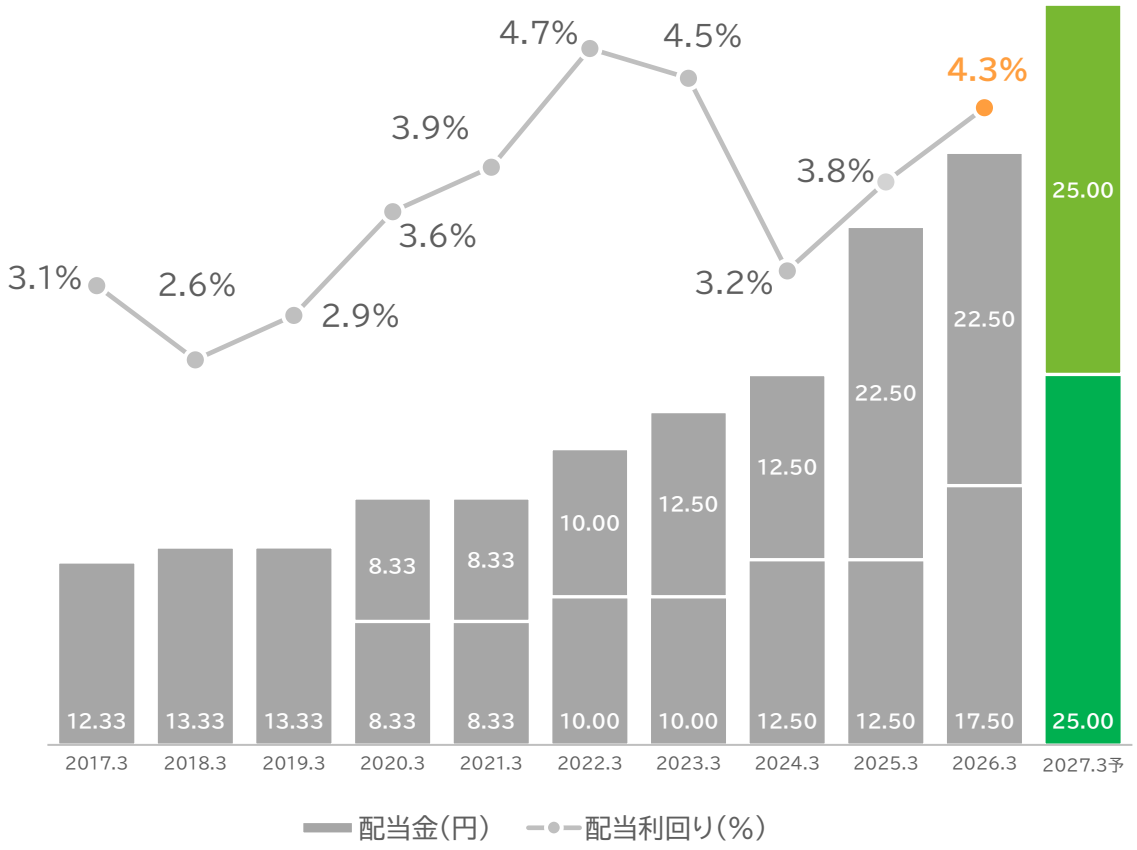
Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

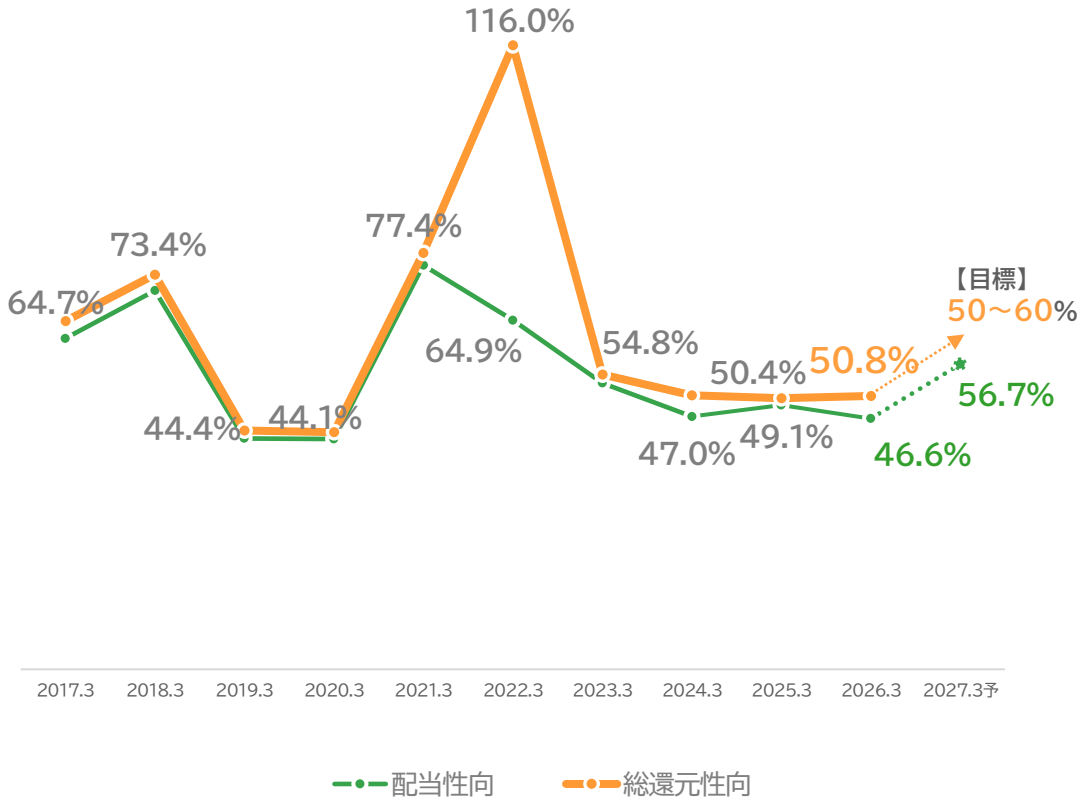
株主還元の充実

2027年3月期は年間配当50円を予定しており、前期比10円の増配となる見込み。総還元性向目標（50-60%）を維持し、安定配当を継続。

1株当たり配当金・配当利回り



配当性向・総還元性向



※2017年1月1日、2021年7月1日を効力発生日としてそれぞれ普通株式1株につき1.5株の割合で株式分割を行いました。
また、2026年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。グラフの配当金は、株式分割にともなう修正換算をしています。

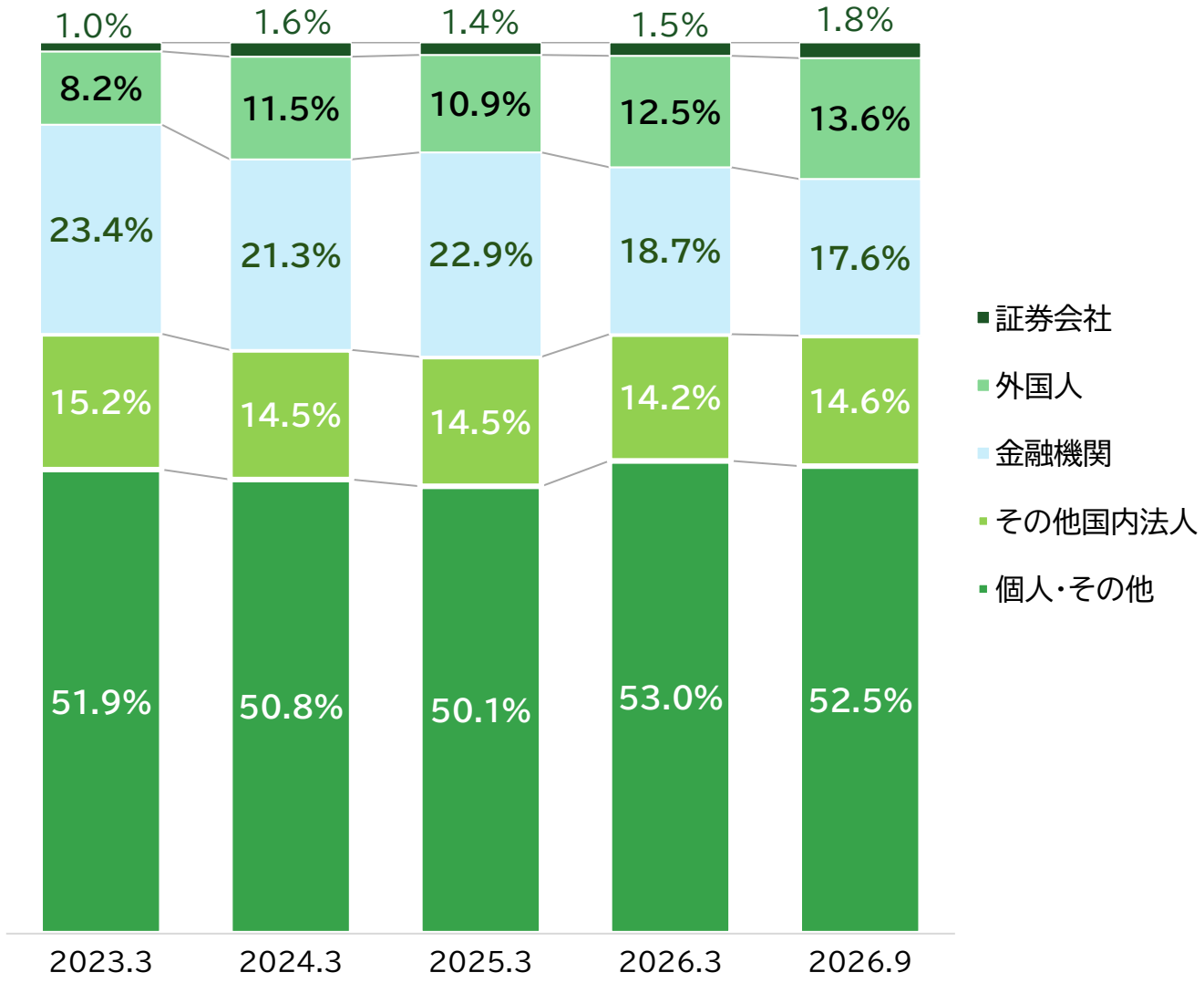
※総還元性向（%）＝（配当総額 ＋ 自己株式取得額）÷ 親会社株主に帰属する当期純利益 × 100

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

株主状況(2026年9月30日現在)

Change or Die !

株主構成の推移



主要株主

- ✓ 株主総数10,116名（2026年3月末比1,491名増）
- ✓ **議決権を有する株主総数8,257名**
  （2026年3月末比1,439名増）
- ✓ 持株比率は、自己株式(97千株)を発行済株式総数から控除して算出しています。

	主要株主	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9.17%
2	株式会社エイ・ケイ	9.11%
3	PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	6.89%
4	ID従業員持株会	5.30%
5	みずほ信託銀行株式会社	3.25%
6	TDCソフト株式会社	2.48%
7	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2.22%
8	舩越 朱美	1.72%
9	丸林 香織	1.56%
10	尾崎 英子	1.05%

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

人としての実感実績(Personal experience and achievements as a human being)

Change or Die !

IDグループはさまざまな社会貢献に向けた、取組みを行っています。

IDグループの活動(2026年3月期実績:約2.9億円)



障がい者雇用
による植物栽培

日本食文化
の発信

子供食堂の支援

IDグループ献血DAY





◀ 鳥取県米子市にて新入社員による
合宿型のフィールドワーク研修を実施

ジェンダーフリーの実現
グローバル人材の
採用・活用

パートナーシップ
規程の制定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう
2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
10 人や国の不平等をなくそう

文化芸術活動支援





メセナ活動を通じ、
多様な芸術家の支援に取り組んでいます。

- 鶴賀流第11代家元鶴賀若狭掾師匠
  (新内浄瑠璃の継承者、重要無形文化財保持者(人間国宝))
- 日本画家 福田千恵氏
- ギタリスト 河野智美氏をはじめとした
  音楽家の皆さま 等

外部からの評価

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門 ホワイト500

「ホワイト500」
に選出
(通算6回目)

SPORTS YELL COMPANY 2026

「スポーツエール
カンパニー2026」
に認定

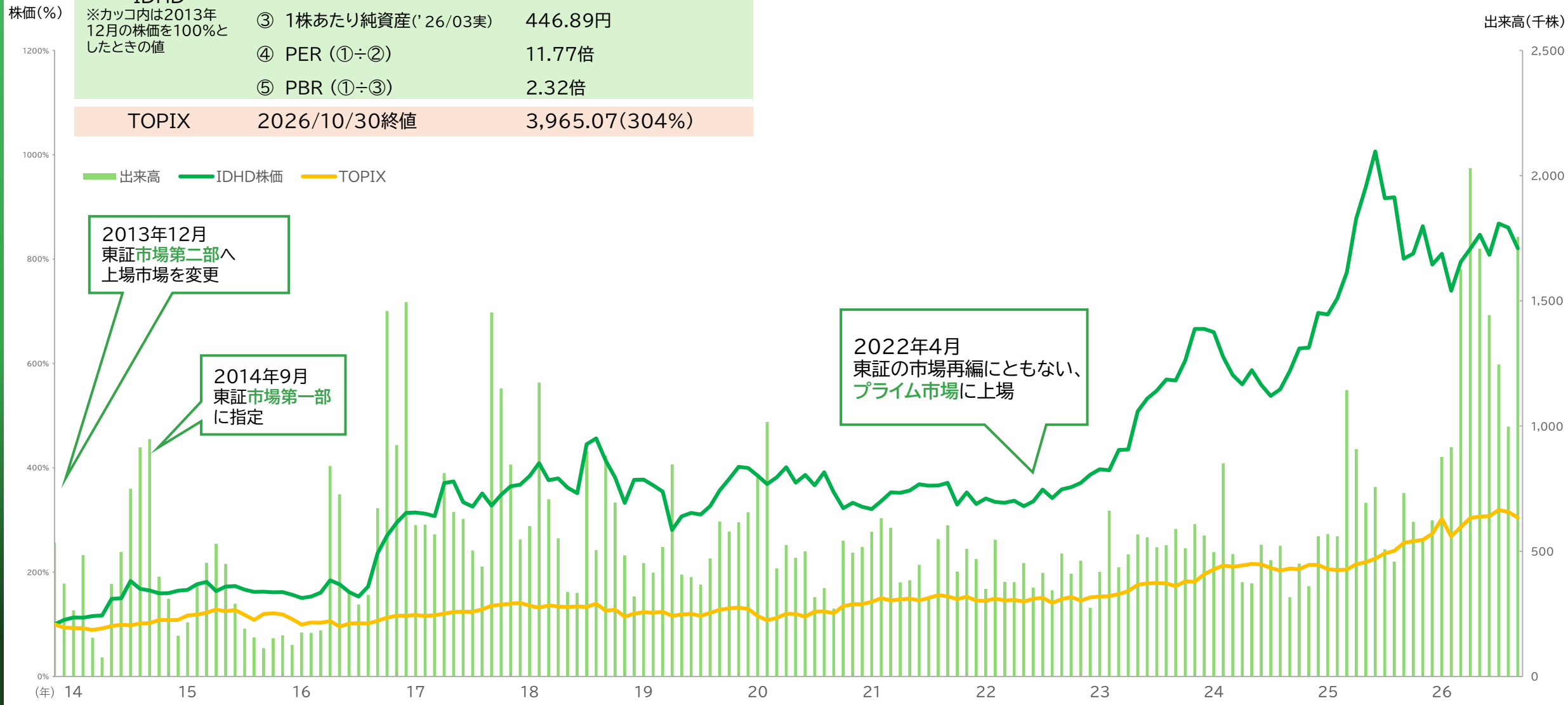
2026年認定(2025年度基準) くるみん 子育てサポートしている

「くるみん」
認定を取得

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

株価の推移(2013年12月～)

IDHD ※カッコ内は2013年12月の株価を100%としたときの値	① 2026/10/30終値	1,038円(821%)
	② 1株あたり純利益(’27/03予)	88.21円
	③ 1株あたり純資産(’26/03実)	446.89円
	④ PER (①÷②)	11.77倍
	⑤ PBR (①÷③)	2.32倍
TOPIX	2026/10/30終値	3,965.07(304%)



Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

2027年3月期通期 連結業績予想(前期比)

	2026.3		2027.3		増減比	
(単位:百万円)	実績	売上高比	計画	売上高比	増減額	増減率
売上高	39,371	-	42,000	-	+2,628	+6.7%
EBITDA	4,518	11.5%	4,850	11.5%	+331	+7.3%
営業利益	4,128	10.5%	4,500	10.7%	+371	+9.0%
経常利益	4,212	10.7%	4,550	10.8%	+337	+8.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,907	7.4%	3,000	7.1%	+92	+3.2%
1株当たり当期純利益(EPS)(円)	85.93	-	88.21	-	+2.28	-
のれん償却前EPS(円)	91.90	-	92.83	-	+0.93	-
営業CF	3,060	-	3,200	-	+139	-

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

Change or Die !

1

2027年3月期第2四半期(中間期)
決算説明

2

中期経営計画
Next 50 Episode Ⅲ “JUMP!!!”

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

ビジョン実現に向けた成長ストーリー

中長期ビジョンの実現に向けて、筋肉質な「高収益モデルへのシフト」と
下支えとなる「カルチャーの革新」の2つのテーマを設定

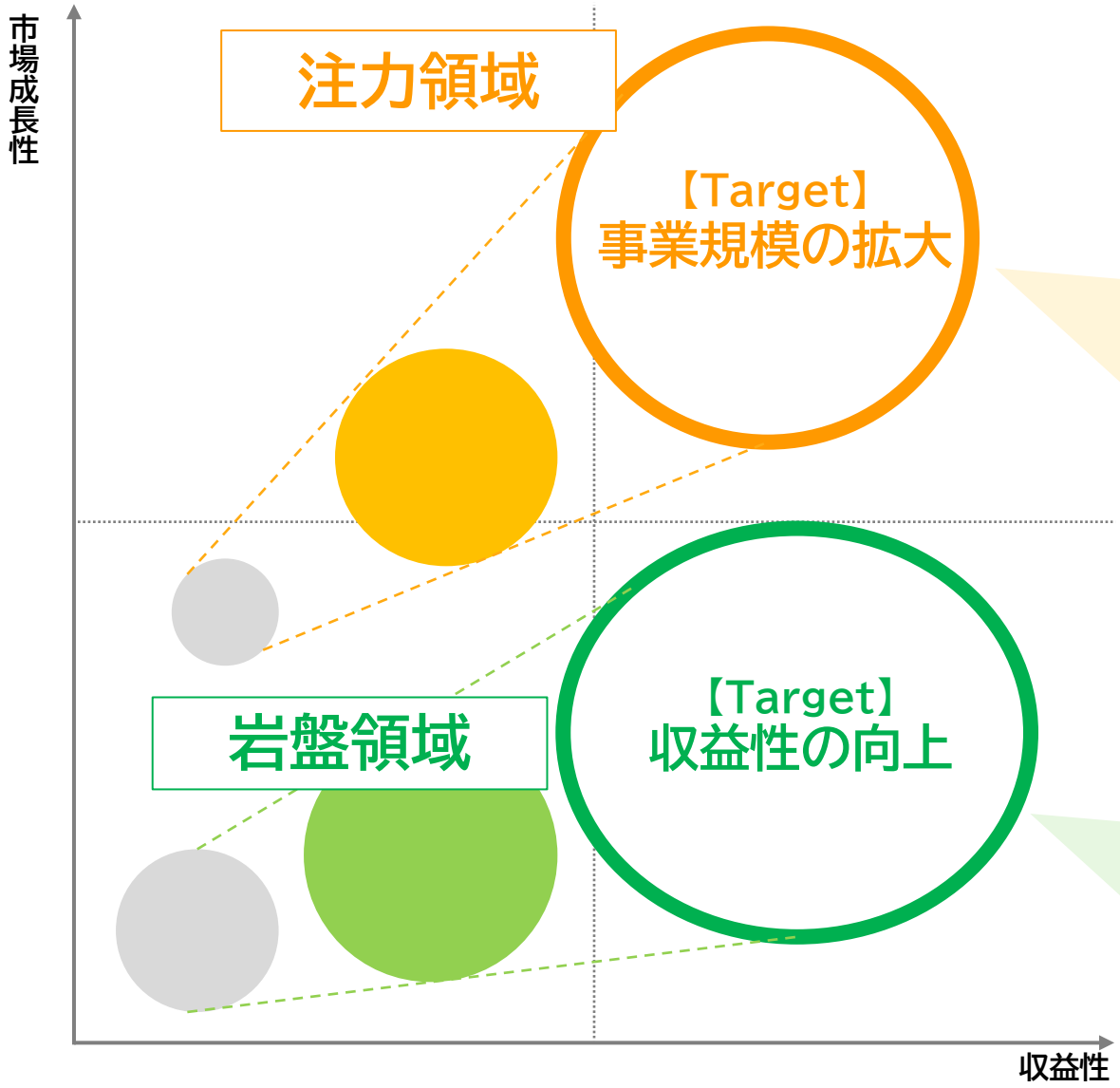


Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

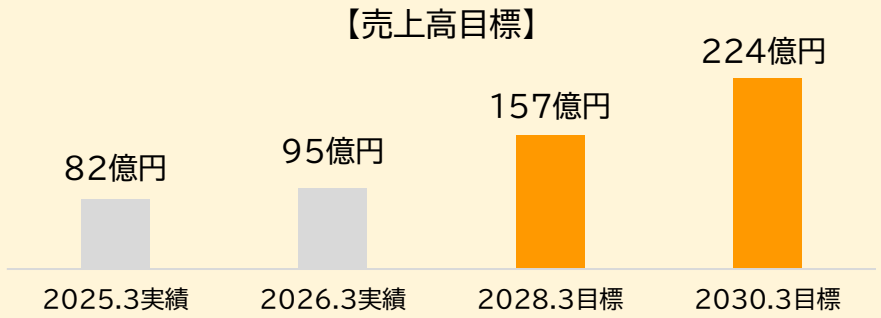
サービスポートフォリオ戦略～全体像～

注力領域における事業規模と、岩盤領域における収益性の両軸で”Jump!!!”を目指す



ITインフラ
サイバーセキュリティ
コンサルティング

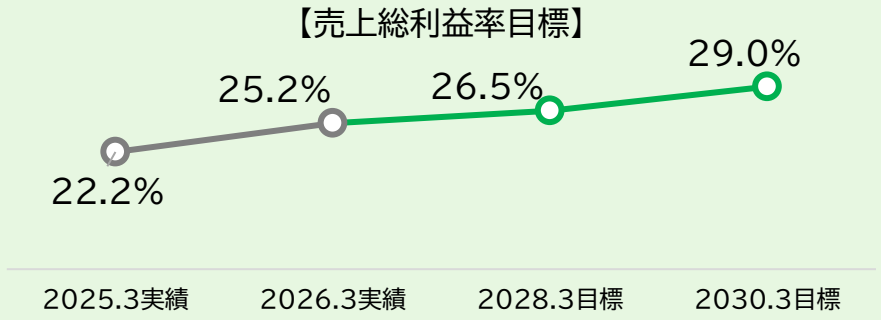
リソースの集中と、高付加価値サービスの提供による
売上高規模の拡大



アップスキルによる人材シフトを推進

システムマネジメント
アプリケーション開発

先端技術の利活用や、案件の選択と集中等による
売上総利益率の向上



Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

サービスポートフォリオ戦略～数値目標～

Change or Die !

	2025.3実績	2026.3目標	2026.3実績	2027.3目標	2028.3目標
売上高(連結)	362億円	385億円	393億円	420億円	440億円
注力領域売上高	82億円	87億円	95億円	116億円	157億円
岩盤領域売上高	275億円	298億円	292億円	304億円	283億円
売上総利益率(連結)	23.9%	26.2%	25.7%	26.4%	28.0%
注力領域売上総利益率	29.7%	28. 5%	28.9%	29.0%	30.6%
岩盤領域売上総利益率	22.2%	25.1%	25.2%	25.4%	26.5%
岩盤領域から注力領域への人材シフト	-	-	54名	2026.3-2028.3の3年間で225名	

注力領域

人材シフト

岩盤領域から注力領域への人材シフトを推進

2026年3月期

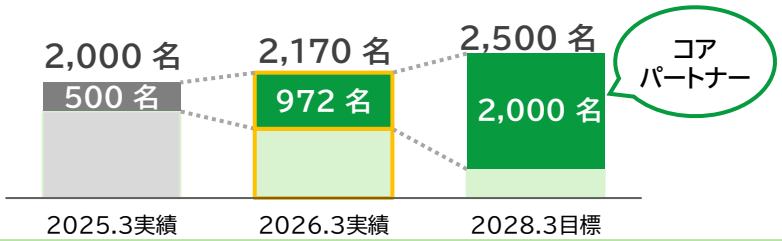
実績：54名(累計)

(年間目標＋4名)

岩盤領域

ビジネスパートナー戦略強化

コアパートナー認定強化と相助型の人材育成で高付加価値人材を確保



教育研修費

アップスキルを含む教育研修の拡充

2026年3月期

実績：3.8億円(累計)

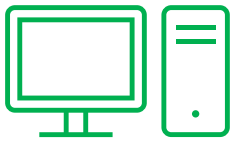
(年間目標に対する進捗率：88.7%)

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

AX（AIトランスフォーメーション）の進行による案件の変化（AI Operating Company）

システムを“つくる・運用する会社”から、お客様の現場でAIを育て、経営成果を生み出す “AI Operating Company”へ

①AX案件



AI Transformation

業務・システムのAI化
＋
セキュリティの強化、
ガバナンスの整備案件の増加

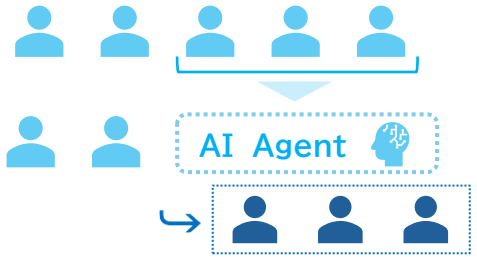
②コスト・工数により見送られていた要件の案件化



Priority

効率化、案件サイクルの
高速化により、
顧客とITベンダーの双方で
受注/発注工数の確保が進む

③AIエージェント導入による人的リソース創出



Human Resource Capacity

より少ない人数で
システムの運用が可能に
▼
創出した人的リソースを
成長事業へ

④金融システムを始めとしたミッションクリティカルな案件



Social Infrastructure

24/365で動く社会インフラのシステムはAI化が進まず、
人にしかできない案件
として残る

案件の数の増加

AI技術者育成が加速

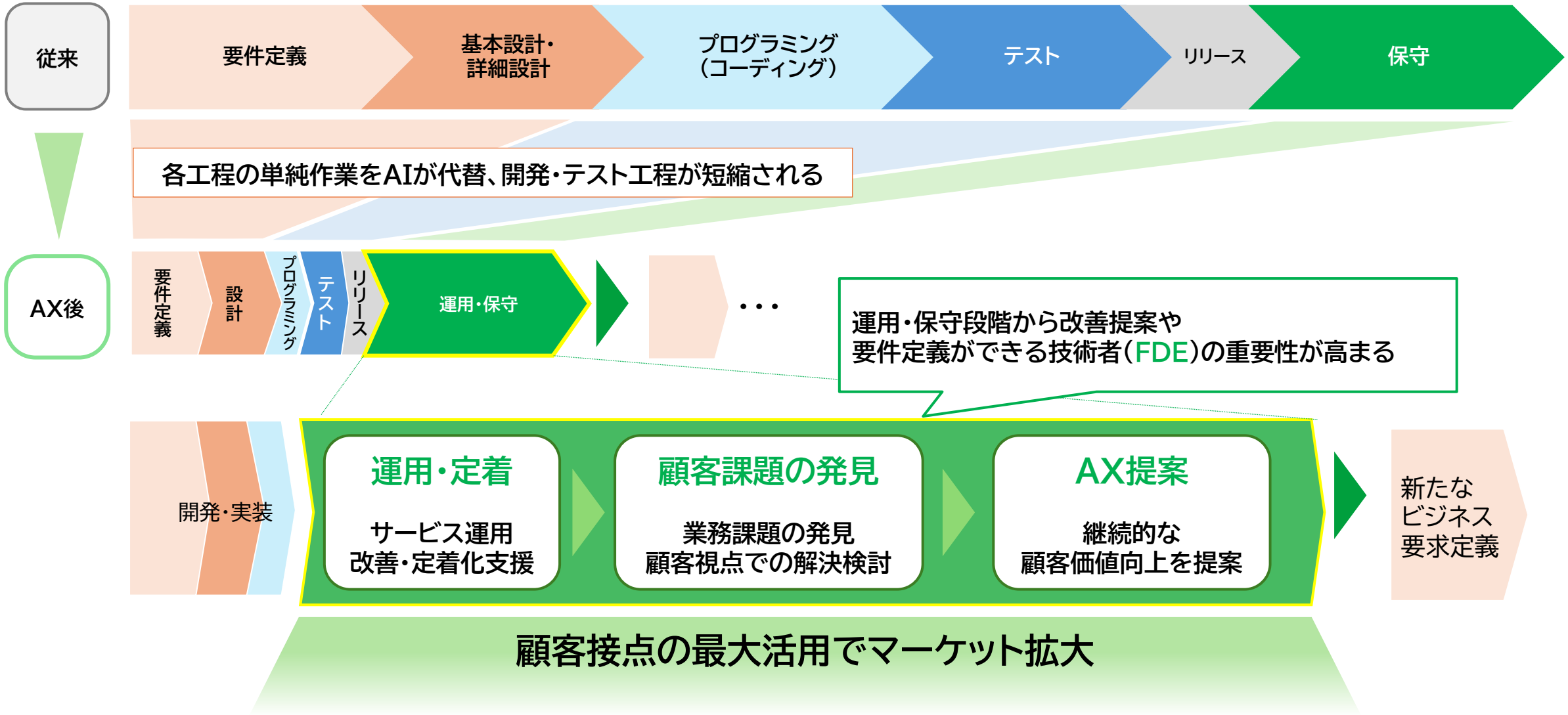
案件（技術）の価値向上

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

当社グループを取り巻く環境：AIによる業界変革

AIが「デジタルレイバー（仮想の労働者）」として、これまで人が担っていた業務の一部を代替。
一方で、効率化による設計・開発工程の短縮で、**運用・保守領域で顧客理解を深め、改革を推進する役割が重要**に。



Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

AI時代におけるIDグループの強み

AIによる市場環境の変化を成長の好機と捉え、人材育成を加速し、IDグループの強みを活かした価値提供を実現する。

IDグループの強み

顧客の実務に近い
システムマネジメント、ITインフラ、サイバーセキュリティ事業



IDグループのビジネスの
約**6割**

エンドユーザー顧客との
直接取引（1次請け）案件



IDグループのビジネスの
6割超

金融顧客をはじめとする
ミッションクリティカルなシステム
の案件実績



創立以来
56年以上

強みを支える3つの力

- 技術力（AI Skills）
- 人間力（Liberal Arts）
- 組織力（Organizational Skills）

人材育成方針

データセンター人材	・コンテナ型、モジュール型等、今後の優位性が注目されているデータセンターに精通する人材
AI技術人材	・コンテナ技術、自動化ソリューション、AIプラットフォーム（OpenShift、ServiceNow、IBM Bobなど）に精通した人材 ・顧客における「AI監査」、「AIを利用した業務設計」等に対応できる人材
非AI化業務人材	・AIに代替されず、人に残る業務を担う人材

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

AIと現場ナレッジを融合した事業モデルへの進化

Change or Die !

人とAIが共創する時代に、止められない事業を支えぬく、AI Operating Companyを目指す。

顧客企業の経営課題

AI活用による業務効率化・省力化と、サービス品質・安全性の維持・向上の両立

課題・要望・業務データ

提案・サービス・継続的な改善
（ヒアリング・提案・実行支援・運用改善）

営業（顧客接点）

各事業本部の専門人材を結集した横断チーム

- コンサルティング
- アプリケーション開発
- ITインフラ
- サイバーセキュリティ
- システムマネジメント

AIと現場ナレッジによるサービス高度化

AI
AIエージェントによる分析・予測・生成・自動化

×

IDグループの現場ナレッジ
顧客理解・業務に関する知見

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

人的資本投資戦略

社員への還元や教育研修費、求人費等を含む、人的資本投資を戦略的に強化し、3年間で60億円を投資。

技術力と人間力の双方を高める人的資本投資を推進

AI Technology vs Liberal Arts
AI時代だからこそ、AIに代替されない人間ならではの価値を追求する。
IDentity(哲学)を礎に人間力を磨き、お客さまから選ばれ、リスペクトされる企業へ。

社員エンゲージメントの向上

社員の「なりたい」「やりたい」をかなえる会社(キャリア啓発)	• 社員の長期キャリアビジョンに沿った機会付与 • キャリアビジョンを実現する創造力と変革力強化の支援 • 実力主義に基づいた人事評価制度とアップスキルにリンクする処遇 • AI技術者の育成に向けた教育・研修の充実
自律思考の社員集団 (企業文化)	• 「期待以上」の成果を発揮するために繰り返し考え続ける文化 • 多様性や人権を尊重する「心理的安全性」の高い組織 • 仕事へのプライドを持ち、互いへのリスペクトがあふれる組織 • イノベーション・マネジメントの強化 (ISO56001の取得)
社員のウェルビーイングを重視 (健康経営)	• 時間外労働の削減、有給休暇の取得率向上 • 職場を問わず、活き活きと働くための健康サポート • 個々のライフイベントに応じて柔軟に働ける選択肢を拡充

人的資本投資実績
(2026年3月期)

17億円

人材育成・確保に向けた投資や従業員還元を実施。
くわえて、2027年3月期は5%のベースアップを実施！

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

サービスポートフォリオ戦略～R&D戦略～

既存ビジネスの進化や新規サービスの創出に向けた研究開発・実用化に注力することで、競争力の向上を図る

AI	技術力強化	➢ **AI駆動型開発**の実用化に向け、AIを前提とした開発標準に加え、AIを効果的に活用するための仕組みや環境整備に関する研究を推進。 ➢ IBM watsonx／Bob、Hitachi iQ、LITRON（NTTデータ）等、各種AIプラットフォームを高度に活用できる技術者を育成。
	製品・サービス	➢ 医療画像の個人情報を識別・マスキングするソフトウェア「**ID-AI Masky**」を2026年8月より医療機関向けに提供開始。医療データの安全な利活用を支え、匿名化業務の負担軽減と個人情報保護の強化を支援。 ➢ 初心者向けの「**ゼロから始めるDify研修**」と、AIエージェントの設計・構築から業務活用までを学ぶ「**Difyで始めるAIエージェント実践研修**」を提供。
	社内活動	➢ **イノベーション・マネジメントシステム**「ISO56001」に基づくBSI Kitemark™認証と、**AIマネジメントシステム**「ISO/IEC 42001」認証を取得。両認証の取得は**日本初**。 ➢ 今年度、事業部門と管理部門から構成される**AI推進委員会**を発足。業務フローの整理とAIエージェントの活用促進を通じ、業務効率化・品質向上を推進。
高度運用	製品・サービス	➢ 「バーチャルオペレーションセンター（ID-VROP）」の販売を開始。ブロックチェーン関連の自社特許技術を活用し、さらなる機能強化を継続。
	外部活動	➢ 「**次世代システム運用コンソーシアム**」に参加。システム運用の高度化・自動化をはじめとする取組みを通じ、運用業務の社会的価値向上を目指す。

研究開発投資目標**10**億円/3年間

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

ツインエンジンM&A戦略

Change or Die !

岩盤領域：売上規模の拡大

- システム マネジメント
- アプリケーション 開発

注力領域：企業価値向上

- ITインフラ
- サイバー セキュリティ
- コンサルティング・教育

M&A・アライアンス候補

A社	システム運用企業
B社	ITインフラ企業
C社	サイバーセキュリティ企業
D社	AI・FDE関連企業

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

グローバル戦略

日本品質のITサービスをもってお客さまを国内外で支える真のIT戦略パートナーを目指します。

Vision

日系企業の海外拠点向けビジネス獲得を中心として、
事業拡大を目指す

Target

マーケティング

金融機関をはじめとした
主要顧客の海外展開をサポート

デリバリー

海外の現地案件を
国内グループ会社で受託

Plan

グローバルデリバリーセンターの確立

技術・リソースの共有

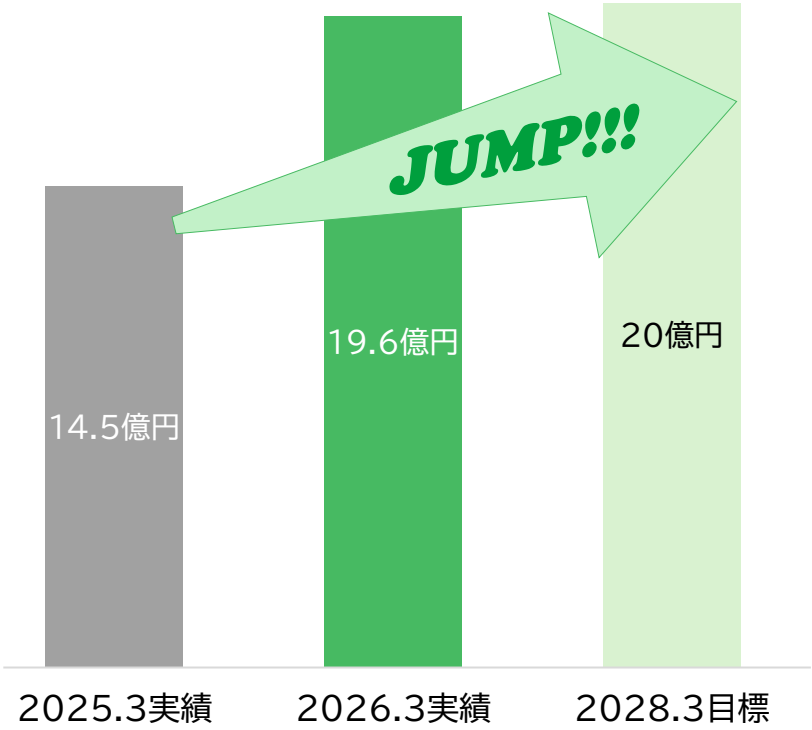
逆オフショア体制の構築

市場動向や先進ソリューションの情報収集による、
営業およびカスタマー・マネジメント

Promotion

「Miraku Boston」(米国ボストン)の運営を通じて、
IDグループを発信

グローバル戦略 売上高目標



Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

資本コストと株価を意識した経営（キャッシュフロー・アロケーション）

収益力の向上および財務レバレッジの活用により、原資を確保し、
戦略的な配分を実行することで、企業価値の向上を図る

2026.3～2028.3累計期間

■持続的な収益力の向上
注力事業へのシフト
EBITDA　150億円

■財務健全性維持範囲での
レバレッジの活用



■人的資本投資（60億円）
人材の採用、教育研修、アップスキル、平均年収の向上など

■経営改革投資（10億円）
生産性の向上、収益力の可視化のための社内ITシステム投資

■研究開発投資（10億円）
AI、VR、ブロックチェーンなど先端技術研究への注力

■M&A/アライアンス投資　ITインフラ、サイバーセキュリティなど
注力領域とシナジーのある会社の買収

■配当
安定した継続的な配当を基本
総還元性向50%～60%以上を目標

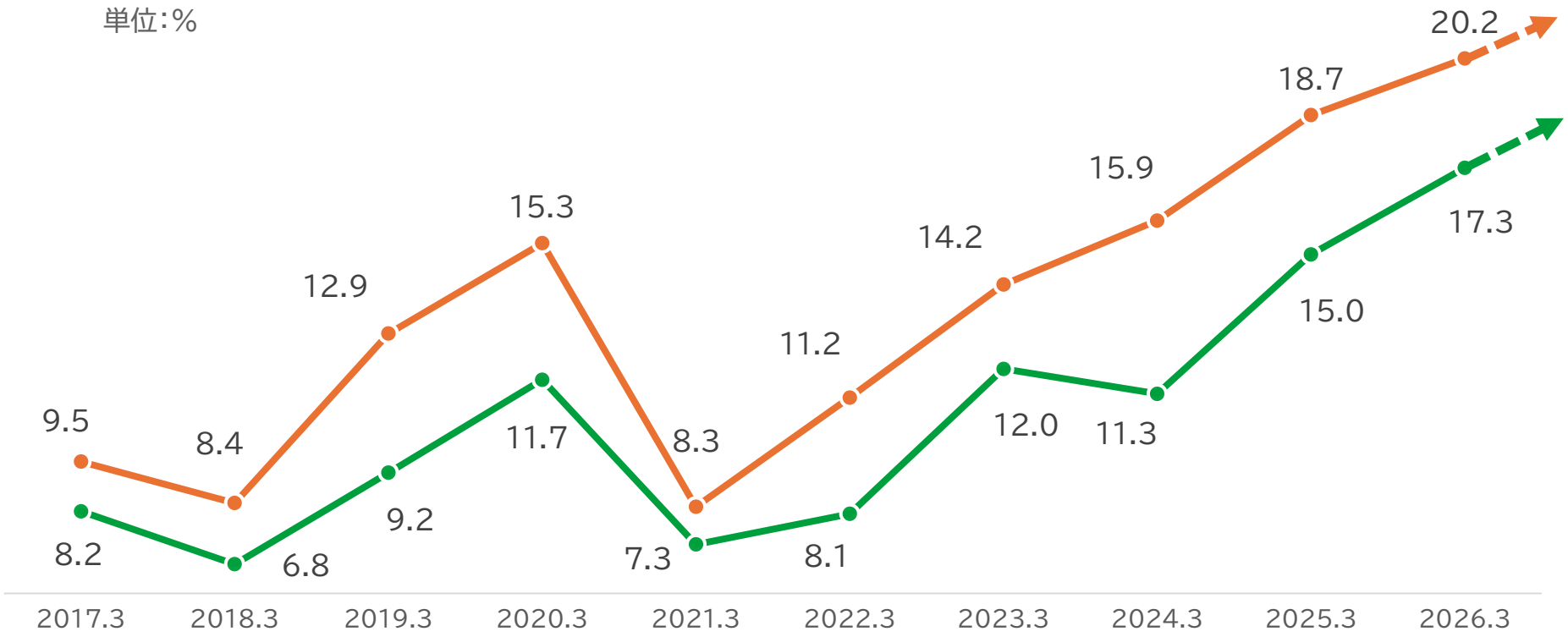
■自己株式の取得
機動的に実施

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

資本コストと株価を意識した経営（ROE・ROIC）

過去10年間にわたりROE（自己資本利益率）とROIC（投下資本利益率）が改善。
今後も持続的に**株主資本コストを上回るROE、WACC（資本コスト）を上回るROICの実現を目指す**



ROE

株主資本コスト（7.2～7.7%）を上回る水準

ROIC

WACC（7.0%～7.4% ）を上回る水準

M&Aは、ROICの向上に資するものを目指す

■投下資本利益率（ROIC）＝（営業利益-法人税等）÷（純資産＋有利子負債）× 100

■株主資本コスト、WACC（資本コスト）参考値（みずほ証券（株）、みずほ信託銀行（株）算出）

・株主資本コスト（7.2～7.7%）＝リスクフリーレート（2.49～2.52%程度）＋β（0.61～0.88）×市場リスクプレミアム（6.0～7.62%）
・WACC＝有利子負債÷（時価総額＋有利子負債）×（1－実効税率）×負債コスト＋時価総額÷（時価総額＋有利子負債）×株主資本コスト
時価総額：317億（2026年3月31日時点、自己株式控除後）、負債コスト：0.88%～1.0%、実効税率：30%～31.1%

Change or Die !

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

（参考）2027年4月の組織変更（事業会社制への移行）

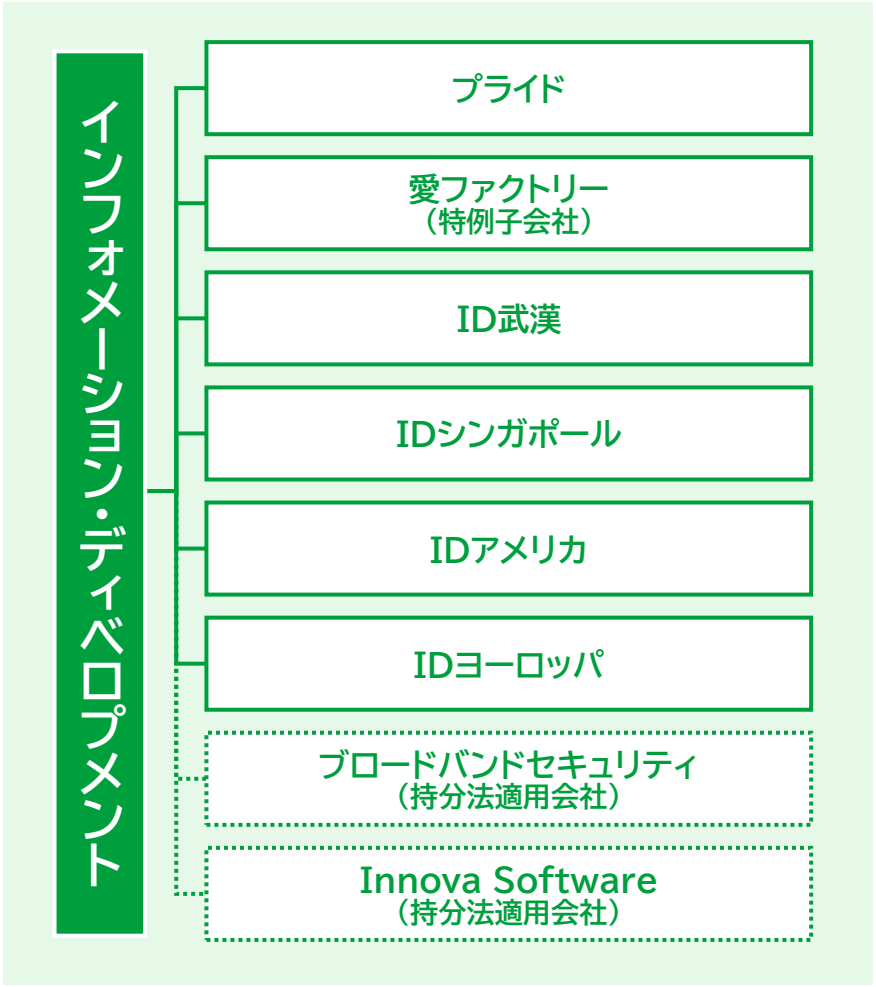
戦略と事業執行の一体化を目的に、2027年4月に完全子会社であるインフォメーション・ディベロプメントを吸収合併し、純粋持株会社制から事業会社制への移行を予定。

2027年3月まで（純粋持株会社制）



- IDを消滅会社として IDHDに吸収合併
- IDHDの商号を変更

2027年4月から（事業会社制）



©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

Change or Die !

免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社 IDホールディングスの業績予想、将来戦略、事業計画などの将来情報や経済動向、他社との競争状況などの潜在的リスクや不確実な要素が含まれています。

これらの歴史的事実以外の情報に含まれる予測及び計画は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断しています。

そのため、実際の業績、事業展開または財務状況は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な原因により、記述されている将来予測及び計画とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

当社コーポレートサイト、ならびにアナリストレポートもあわせてご覧ください

中期経営計画
https://www.idnet-hd.co.jp/ir/strategy.html

Shared Research

(株)シェアードリサーチによる
アナリストレポート
※閲覧には会員登録が必要です。
https://sharedresearch.jp/ja/companies/4709

©2026 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.